



発行／小諸市公民館
編集／館報編集委員会
〒384-0801
長野県小諸市甲1275-2
☎0267-23-8880

No.826

第32回 小山敬三記念小諸公募展



小山敬三記念大賞

『柵津谷（懐古園）』 田端 敏夫さん（群馬県）

小山敬三記念大賞

◆内容 16 20

特集 第34回小諸市公民館まつり
『ぼくとわたしの作品』（小諸東中学校）
『教えて！あなたのサークル』（写案こもろ／大日本茶道学会小諸支部）

21 募集 第25回小諸・藤村文学賞
ご案内 第7回邦楽のつどい
1月公民館講座
お知らせ 文化会館スケジュールなど

調べてみると、新年に年神様をもてなしてそのお返しとして、お供えした餅を神様の魂として子ども達に与え「御歳魂」と呼ばれたことが始まりとする説があります。
毎年子ども達のお年玉の額が発表され賛否はありますが今年はお年玉の謂れを考えながら用意しようと考えています。

編集委員 遠山 厚子

自分が子どもの頃は毎年当然のようにもらい、社会人になってからは親戚の子、そして我が子にもあげてきました。でも、お年玉をあげる理由は何だろうか？
年末恒例のテレビ番組が終わり家族が寝ると、その後忙しくなるのが私の懐です。明日のためにお年玉の用意をします。

年末休みになる29日から31日まで、普段は手をかけない照明器具や流し台の下など、そして年神様をお迎えする神棚の掃除に励みます。
31日になりお年取りを済ますとやっと忙しさから解放されます。

